

原発事故と食の安全 (13)

この70年間、1人も殺さず、殺されずに平和国家を維持してきた日本は、「安全保障関連法案」で戦争する国、アメリカの戦争に参加する国に作り変えようとされています。まさに今「戦争法案」反対の声が思想、信条、職業、党派を超えて広がってきました。女性九条の会で、同志社大学の浜矩子教授は安倍政権のいう「強い日本」、「強い経済」を「取り戻したがり病」は力と強さへの幼稚な執着だと断罪、その対極にある「傾聴する耳、人の痛みに涙する目、差し伸べる手の三つの武器を持って安倍政権の野望を打ち砕き、戦争なき未来、排除なき未来、共に生きる未来をつくろう」と呼びかけました。世界のあちこちで戦争を起こしているアメリカに行きこの法案を通す約束してきた安倍首相。日本はアメリカの属国ですか？今が正念場だと思い、前書きが少し長くなりました。

原発過酷事故から4年3か月が過ぎました。今なお福島からの避難者は13万人を超え、千葉や東京からの自主避難者は何の補償もない中でも多数おられます。一度事故が起きると、とてつもない被害が続き、先が見えません。今でも毎日数十億ベクレルの汚染水が海に流れ続けています。

環境エネルギー政策研究所の飯田哲也氏によると、世界の原発発電量のピークは2006年で、日本では1998年がピーク、その後発電量は、自然エネルギーに変わっているという。10年前は4700万kWだった風力発電は8倍の3億8千万kW、原発は世界に430基あり3億7千万kW、風力が原発を上回ったという。太陽光は1億8千万kWで原発の半分だが、毎年40%増加しているので、あと3年で原発を追い越すという。自然エネルギーに投じるお金は10年前4兆円、去年は31兆円。去年の水力を含む自然エネルギー発電量は原発の倍だという。原発1基につき毎日出る広島原爆3個分の核のゴミの持って行き場もない。2014年の関電決算では1kWも発電していない原発維持費に2988億円も使い電気代値上げであります。誰が見ても明らかな事実を隠し、地震多発国に原発再稼働を言い募る政府と財界は、一体何のために政治を行い、経済活動をおこなっているのか、その矜持と本心を問うてみたい。

3・11の放射能被害は、もう過去の事のように思っている人が多くなりました。しかし今でも放射性セシウムの被害や放射性ストロンチウム？被害の現れている方は数多く診療に見えます。再発の方もいれば、初めて知って驚かれる方もいます。除染方法を実施していただくと1か月後には放射性物質は体から消えています。それでも障害は残ることがあります。皮膚の湿疹ですと、痒みや赤みが消えても黒ずみはかなり永く残ります。筋肉では断裂が見られたり、喉の詰まり感を訴える方は、花粉や一部の食物でも症状が引き起こされたりしています。また、脳や肝臓、関節、卵巣等にみられる場合も早く排泄を行い、食物の除染に取り組みなければなりません。症状は以前にも書きましたように、非常に多彩です。

ですから、精神的なものと決めつけずに、その症状の原因を調べていく必要があります。バイ・デジタルOーリングテストは、これらの診療には必要な検査法です。